

埼玉親善大使レポート

新井 花凜

○はじめに

この度、埼玉親善大使としてクイーンズランド州スカラシッププログラムに参加させていただいた、新井花凜です。はじめに、このプログラムに関わったすべての方々に感謝申し上げます。トラブルや私の要望に対応してくださったホームステイファミリー、オーストラリアや埼玉県の関係者の方々、そして埼玉親善大使のみんな、ここでは上げきれないほどの方々の協力があり、このプログラムに参加することができました。本当にありがとうございました。私が学んだことをこの場を借りていくつか紹介させていただきます。

○Yeppoon での生活

・Yeppoon について

Yeppoon は海沿いにある地域でとてもフレンドリーな方々であふれていました。出会って5秒で友達になり、お菓子パーティをしたり、勉強を教え合いっこしたりしました。とても楽しく充実した時間でした。ストリートアートも有名で外観がとても綺麗で驚きました。

私たちが Yeppoon に訪れたのは7月～8月でオーストラリアでは冬に当たります。しかし、日中は半袖で過ごせるほど暖かく過ごしやすいかったです。ホームステイファミリーにラグーンに連れて行ってもらい、水遊びもできるほどでした。冬はとても冷え込み毛布は必需品で、昼と夜の寒暖差が印象的な地域でした。



綺麗な海



ストリートアート

・学校生活(イエッブーン高校)について

月曜日から金曜日までは特別授業を除いて学校に通いました。私のホームステイ先は学校と距離が近かったので行きは車、帰りは歩いて下校しました。ホストブラザーが常に一緒に下校してくれ、段々と会話が増えていくのを感じとても嬉しかったです。授業割は日本と異なり 70 分の授業が 4 つあり、2 限と 3 限、3 限と 4 限にお昼休みと PM ブレイク(おやつ休憩)がありました。バディが毎日 2、3 人ついてくれ、何不自由なく学校生活を送れました。私が驚いたのはそのほかの授業の間には休み時間がないということです。生徒は急いで次の授業に向かっていました。また、私の学校にはない PM ブレイクがあるのは授業の気分転換となりとても良いなと思うとともに少し羨ましく感じました。

昼休みはバディと一緒にタックショップ(学食)へ行ったり、おしゃべりをしたりして過ごしました。日本に興味がある生徒が多く、埼玉県のことについて話したり、オーストラリアのことについて教えてもらったりしました。特にアニメについて盛り上がり、日本のサブカルチャーを知ってもらっていると知り、とても嬉しかったです。日本語で話しかけてくれる生徒も多く、充実した時間になりました。

授業は日本語、数学、英語など他にも多数の授業を受けました。ノートパソコンを持っている生徒が大半で大学の授業みたいだと感じました。また、生徒は率先して発言し、自分の意見を相手に伝えようとする生徒の姿勢に驚きました。私もそのことに感化され、日本にいる時と比べ自分の発言量が増えました。

特別授業は St Ursula's College の訪問や中学 1 年生との遠足、動物園など様々な場所に訪れ、体験することができました。私はこの中でも小学校訪問が記憶に残っています。私たちに絵を書いてプレゼントしてくれ、その絵が宝物になりました。短い時間でしたが、濃い思い出になりました。

イエッブーン高校で過ごした 2 週間は私にとって発見の数々であふれた日々でした。私を支えてくれたバディや先生方、本当にありがとうございました。別れる時は寂しく、泣いてしまいそうになりました。また会える日を楽しみにしています。

・ホームステイについて

私のホームステイファミリーは日本のことが大好きで私はよく日本のこと、埼玉県のことについて話しました。日本からのお土産も気に入ってくれ、プレゼントしたグミをずっと食べていました。ホストマザーとは歌を歌ったり、料理をしたりしました。ホストファザーは仕事が忙しい中、キャンプファイヤーを作ってくれたり、ホストブラザーはバドミントンをしてくれたりしました。本当に楽しい時間でした。過ごしていく中で驚いたことはカードゲームがあまり主流ではないということです。私のホームステイ先にはトランプなどのカ

ードゲームが1つありませんでした。その代わり、ダーツやバドミントン、バスケットボールで遊びました。ホストブラザーはサッカーがとても上手で、教えてもらいながら一緒にプレーができ、少し上達することができました。また、オーストラリアでは犬を飼っている家庭が多く、私のホームステイ先にもモカという大型犬がいました。逆に猫は一切見かけず驚きました。猫は飼っていたとしても家からは出さないのあまり見かけないそうです。モカはとても可愛く、毎日一緒に駆け回って遊びました。

料理は日本の米を毎日出してくれ、日本食が恋しくなることはありませんでしたが、日本では見ない新しい料理に挑戦することができました。甘いおかゆやアボカドジュース、丸ごとチキンなど毎日の食事が楽しみでした。ホストマザーだけでなくホストファザーも家事を当たり前のように参加しており、日本もそうになっていくべきだと思いました。

休日は動物園やショッピングモールに連れて行ってくれました。寿司屋がとても多く行列になっていて驚きました。日本食が人気だということを知れ、とても嬉しかったです。

ホームステイファミリーとお別れをするとき、「いつでも帰っておいで。困ったら連絡してね。私たちはもう家族なのだから。」と言ってくれ泣きそうになりました。はじめは何を話せばいいのかも分からず黙ってしまうことも多かったです。段々と話せるようになり、自分の気持ちややりたいことを伝えられるようになりました。文法や語彙だけではなく、まずはボディランゲージがとても重要だということに気付きました。特に表情は相手に気持ちや物事を伝えやすいですが、日本で私は笑う以外で表情をあまり変えてないことに気付きました。一方、ホームステイファミリーは悲しかったり、緊張したりと表情をコロコロと変えていました。このことが私にとって一番の大きな学びになりました。

短い間でしたが、一緒にホームステイファミリーと過ごした日々はとても楽しく充実していました。それはファミリーの手厚いサポートがあったからです。本当にありがとうございました。オーストラリアに再び行ったときには会い、感謝を伝えたいです。



愛犬のモカ



ホームステイファミリーと

○活動内容

埼玉県の良いところを伝えるために現地のの人々とよく日本や埼玉県の話をするようにしました。イエップーン高校の友達はずいぶん今度、埼玉に行ってみたくて言ってくれました。自分の英語が伝わった瞬間でもありとても嬉しかったです。

また、埼玉親善大使として活動している間、自分の感じた事や体験したことを自身のインスタグラムアカウント(ora_n.1235)で発信しました。多くの人が見てくれ、感謝でいっぱいです。その他には自身の町のキャラクターであるふっかちゃんのシールを配りました。みんな可愛いと喜んでくれ、勇気を出して渡して良かったなと思いました。

ブリスベンでは日本国総領事公邸でのアフタヌーンティーセレモニーに出席しました。オーストラリアで学んだこと、感じたことなど意見交換をしました。自分にはなかった考え方や見方を知ることができとても有意義な時間でした。



○おわりに

はじめは家族や友達とこんなにも長く離れることは初めてでとても不安でしたが、周りの方々の協力もあり無事に多くのことを学び帰国することができました。暖かく私たちを迎え入れてくださったホストファミリーやイエップーン高校の皆様にはとても感謝しています。日本の良さを改めて知るとともにオーストラリアの魅力に気づき、オーストラリアが私の第二の母国になりました。

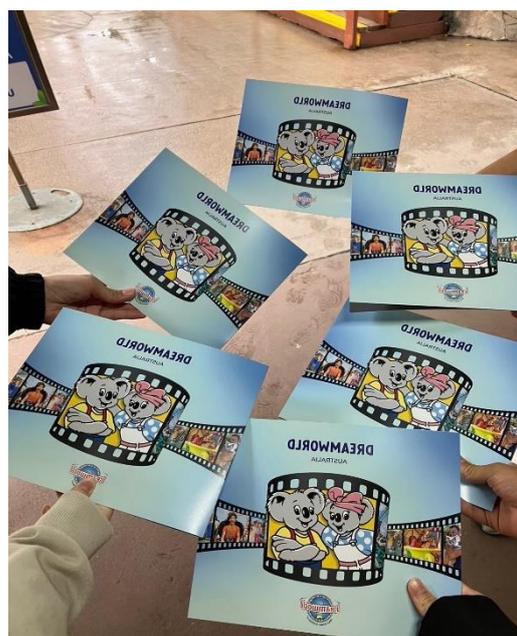
オーストラリアでは「ボディランゲージ」そして、「積極的に挑戦する大切さ」を学びました。私はとても心配性ですが、この研修を通じて「何とかなる。」と思えるようになりました。心配ばかりしては物事は何も始まらないということに気づき、今ではとりあえず挑戦し、発言するようになりました。失敗したら次また変えていけばいい。このことは私の大切な考え方になりました。

今回のプログラムは埼玉親善大使として6人が集まりました。私たちは出発前に一度しか会ったことがなく、学校や年齢すらも違いこの機会がなかったら会うことはなかったかもしれません。しかし、バラバラな私たちだからこそできたことがあり、最終日には私にとって最高の仲間になりました。17日間ありがとうございました。

最後に今回、このプログラムに関わってくださったすべての方々に改めてお礼申し上げます。もう二度とできない最高の経験と学びを得ることができました。次に埼玉親善大使となるみなさん恐れずに挑戦してください。この貴重な機会をみなさんが思う存分活かせるよう心から願っています。



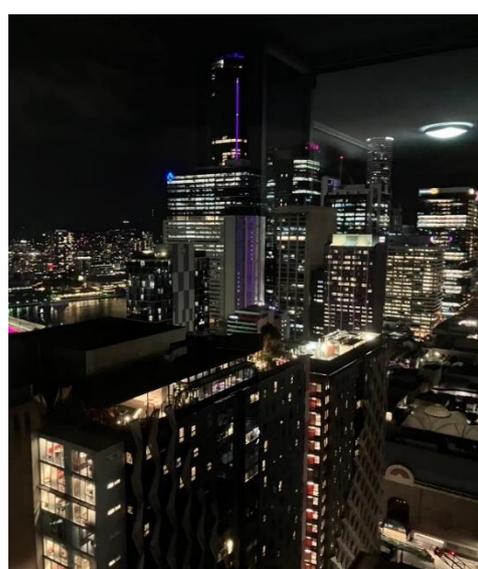
初めてランチした場所



みんなで行った動物園



コアラ抱っこ



ホテルでの夜景